

INPEX

国際石油開発帝石株式会社  
事業活動のご報告(中間)

2012.4.1 ▶ 2012.9.30

# Energy for a Bright Future

明るい未来を拓くエネルギー



## ウェブサイトのご案内



「イクシス LNG プロジェクト」  
紹介サイトを開設しました

当社ウェブサイトには、会社概要や事業内容、プレスリリースといった基本情報はもちろん、環境・CSRの取り組みやキッズ向けページなど、石油・天然ガスに関する幅広いコンテンツをご用意しています。また、文字拡大・縮小機能や印刷ページ、お問い合わせフォームを設けるなど、使いやすさにも配慮しています。株主・投資家向けIRサイトでは、決算や過去の投資家向け資料だけでなく、個人投資家の皆様向け情報や、関心の高い原油価格・為替等の情報、用語集、さらにプレスリリース時などにメールでお知らせする配信サービスも行っています。是非一度ご覧ください。

URL : <http://www.inpex.co.jp/>

INPEX

検索

## IRカレンダー

本決算発表、説明会 (機関投資家・アナリスト向け)  
5月中旬第1四半期決算発表  
8月上旬株主通信(中間)送付  
12月上旬第3四半期決算発表  
2月上旬6月下旬  
定時株主総会、株主通信送付11月上旬  
第2四半期決算発表、説明会 (機関投資家・アナリスト向け)

以上のほか、プロジェクト等に関する事業説明会や、個人投資家向け説明会などを、随時実施しています。

## 見直しに関する注意事項

この「事業活動のご報告」に含まれる将来の業績などの記述は、現時点における情報に基づき判断されたものです。こうした記述は経営環境の変化等により変動する可能性があり、当社としてその確実性を保証するものではありません。

国際石油開発帝石株式会社  
INPEX CORPORATION

〒107-6332 東京都港区赤坂5-3-1  
TEL : 03-5572-0234 (IRグループ)  
URL : <http://www.inpex.co.jp/>

UD FONT  
見やすいユニバーサルデザイン  
フォントを採用しています。

ミックス  
責任ある木質資源を  
使用した紙  
FSC® C002286

VEGETABLE  
OIL INK

この報告書は、  
針金を使わない  
「ECO綴じ」にて  
製本しています。

国際石油開発帝石株式会社  
INPEX CORPORATION

# Outline of Business

国際石油開発帝石 (INPEX) の事業概要

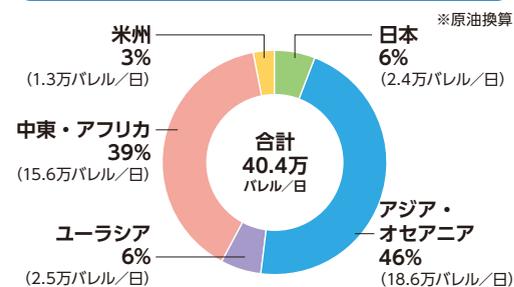
社会的にかけがえのない存在として、  
より一層評価される  
企業になることを目指し、

- ▶ 石油・天然ガス開発事業の持続的な成長を実現し、上流専門企業のトップクラスを目指します。
- ▶ 天然ガスをコアとして、総合エネルギー企業へと展開・進化します。
- ▶ 日本のエネルギー自給率の向上において大きな役割を果たし、経済成長、社会発展に貢献します。



## 原油・天然ガスの生産量及び埋蔵量

### 地域別ネット生産量 (2012年4月～9月平均)



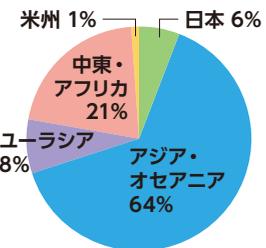
### 原油・天然ガス埋蔵量 (2012年3月末時点)



ネット生産量\*は、既存油・ガス田の自然減退や、原油漏洩発生に伴うブラジルのフラージ油田の生産停止などにより、前期比約6%減少しました。埋蔵量は、オーストラリアのイクシスLNGプロジェクトの最終投資決定に伴い、同プロジェクト商業化の確実性が増加し、確認埋蔵量が前期比約86%の大幅増加となりました。

\*当期より、天然ガスの原油換算について、プロジェクトごとの天然ガス熱量を反映して算出する方法に変更しております。

### 確認埋蔵量の地域別内訳

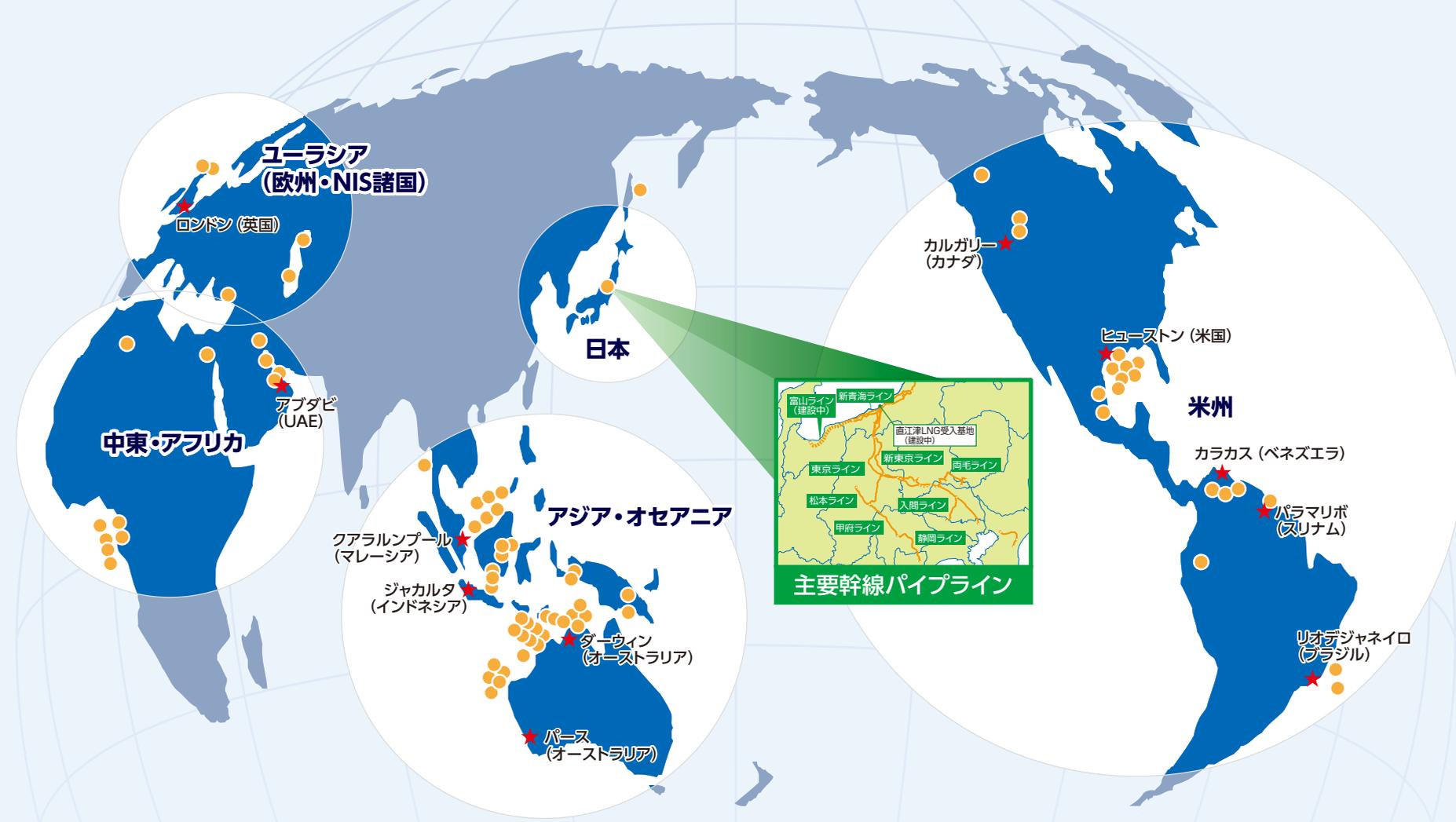


※1: ネット生産量及び埋蔵量は、各プロジェクトの石油契約に基づく当社取り分に相当する数値を表示しております。

※2: 確認埋蔵量は米国証券取引委員会 (SEC) の基準に、推定埋蔵量は石油技術者協会 (SPE) が世界石油会議 (WPC) 等の支援の下に策定した基準 (PRMS) にそれぞれ従っております。

※3: 可採年数は、2012年3月末の「確認埋蔵量」及び「確認埋蔵量+推定埋蔵量」を2011年度生産実績で除して算出しております。

## INPEXのグローバルな事業展開



26 26カ国 76 76プロジェクト

★ グループ海外オフィス ● プロジェクト (2012年10月末現在)

## 01 当社の事業環境

株主の皆様には、平素よりご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

世界経済の不安定化が増すなか、わが国では昨年の東日本大震災を機にエネルギーの安定供給の重要性が再認識されております。石油や天然ガスを主体とするエネルギー開発を行う当社は、日本へのエネルギーの安定的かつ効率的な供給という社会的使命を担っておりますが、震災以降、私をはじめ当社グループの役員・従業員一同、エネルギーの自主開発の重要性とその社会的使命を以前にも増して強く認識しています。

わが国では原子力発電所の再稼働の是非も含め、国内のエネルギー・環境政策について議論が続いていますが、私は、①省エネ、

②化石燃料（石炭、石油、天然ガス）、③再生可能エネルギー、の順でバランスを取るという方向性が大きな流れだと考えています。この中で、再生可能エネルギーの重要性が増すとともに、環境負荷が比較的小さい天然ガスの果たす役割も引き続き増加していくことが見込まれています。

天然ガスへの期待が高まるなか、特にシェールガスの生産急増などにより価格が低下している北米産天然ガスが注目されています。当社はグローバルな天然ガスポートフォリオ構築の一環として2011年11月にカナダにおいてシェールガス権益を取得しました。LNGを中心にグローバルな天然ガスポートフォリオを拡充していくのが望ましいとの考えの下、今後も当

社は、天然ガスを含めたエネルギーの安定供給に貢献する権益への参入を進めていきます。

また、長期的なトレンドとして、太陽光や風力、地熱といった、環境にやさしい「再生可能エネルギー」への注目が高まっています。当社は広範囲な地域への安定したエネルギー供給に貢献することにより、総合エネルギー企業へと展開・進化することを目指しており、再生可能エネルギーについても複数の事業化を検討していますが、なかでも地熱開発には最も力を入れて取り組んでいます。地中に井戸を掘る地熱開発に求められる技術は、石油開発と共通しているため、当社の強みを発揮できる分野として、今後もさらに取り組みを進めてまいります。

## 02 当中間期の業績について

当中間期の連結決算は、原油の販売数量の増加とガス価高により、売上高は前年同期比0.9%増収の5,785億円となりました。売上原価は、減価償却費の増加等により上昇しましたが、探鉱費や販売費及び一般管理費は減少し、営業利益は前年同期比3.0%増の3,379億円となりました。営業外収益でオーストラリアのイクシスLNGプロジェクトの権

益譲渡益及び投資有価証券売却益などの計上により、経常利益は前年同期比9.4%増の3,638億円、四半期純利益も同49.7%増益の1,113億円となりました。

なお、通期の連結業績予想は、原油価格が本年8月時点の業績予想の前提より若干上回って推移したこと、イクシスの権益譲渡について、当該譲渡に伴う譲渡益が従来予想よ

り上積みされる想定としたことなどを踏まえ、売上高10,990億円、営業利益5,990億円、経常利益6,400億円、当期純利益1,820億円に修正しております。



### 連結業績ハイライト (中間)



※2008年度から、金融商品取引法に基づく四半期報告制度が導入されましたが、この「事業活動のご報告」では株主の皆様の利便性を考慮し、第2四半期(9月末)及び第2四半期まで(4月~9月)の累計数値について、「中間」と記述しております。



代表取締役社長  
北村 俊昭

## 03 主要プロジェクトの進捗及び新たな案件取得に向けた取り組み

当社は本年5月に「INPEX中長期ビジョン」を策定し、当社が中長期にわたり持続的発展を遂げるための成長目標と、この達成に向けた今後5年間の重点的取り組みを定めました。

まず、中長期ビジョンのカギを握るオーストラリアのイクシスLNGプロジェクトについて

ては、本年1月の最終投資決定後、開発作業及びプロジェクトファイナンスを中心とした銀行借入にかかる金融機関との協議が、ともに着実に進捗しております。

イクシスに続く大型LNGプロジェクトであるインドネシアのアバディについては、基本設計 (FEED) 作業の開始に向け最終準備を

進めています。

オーストラリアのプレリウドFLNGプロジェクトについては本年6月にシェル社から、また、カナダシェールガスプロジェクトについても本年8月に加ネクセン社からの権益取得手続きが完了しました。また、本年8月には、米アナダルコ社から米国メキシコ湾大水

深に位置するルシウス油田開発の権益を取得するとともに、西アフリカのアンゴラ共和国沖合の油田権益を取得することについても仏トータル社と合意しました。

これらの案件は、いずれも開発ないし生産中のプロジェクトであり、早期の生産量及び埋蔵量の拡大に貢献するとともに、大水深など

のフロンティアにおける技術面等での貴重な経験を獲得する機会として期待しております。

これらプロジェクトの推進を通じて、当社は、上流専門企業のトップクラスを目指し、中長期ビジョンで掲げた目標である2020年代前半にネット生産量日量100万バレル(原油換算)を達成すべく取り組んでまいります。

## 04 配当政策について

当社は、中長期的な利益の拡大と、株主の皆様への利益の直接的な還元とのバランスを図っていくことを基本方針として、配当を決定しております。

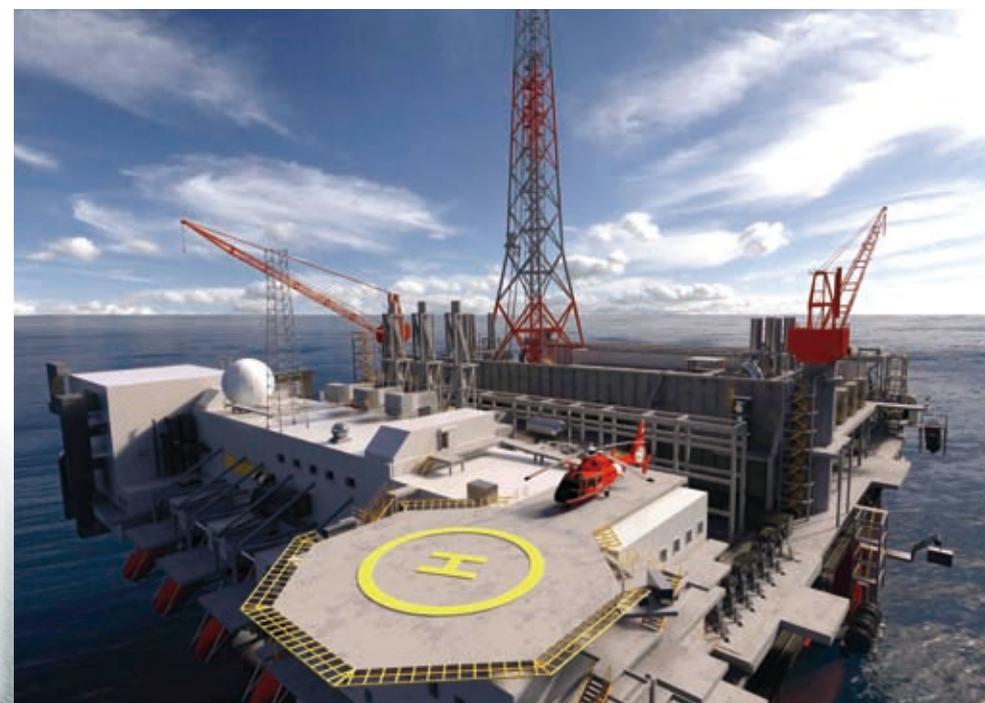
具体的には、配当による株主の皆様への直接的な還元と、プロジェクトから生まれるキャッシュ・フローをさらなる投資に振り分け収益規模を大きくしていくこととのバランスです。

また、イクシスが生産を開始する時期からは、海外の同業他社など、上流専門企業トップクラスの水準を意識しながら、適切な株主還元を図ってまいります。



当社ウェブサイト「イクシスLNGプロジェクト」紹介サイトを開設しました  
**▶ イメージビデオもご覧いただけます**  
<http://www.inpex.co.jp/ichthys/index.html>

イクシスLNGプロジェクト (ダーウィン陸上施設) (イメージ)



イクシス 沖合生産・処理施設 (CPF) (イメージ)

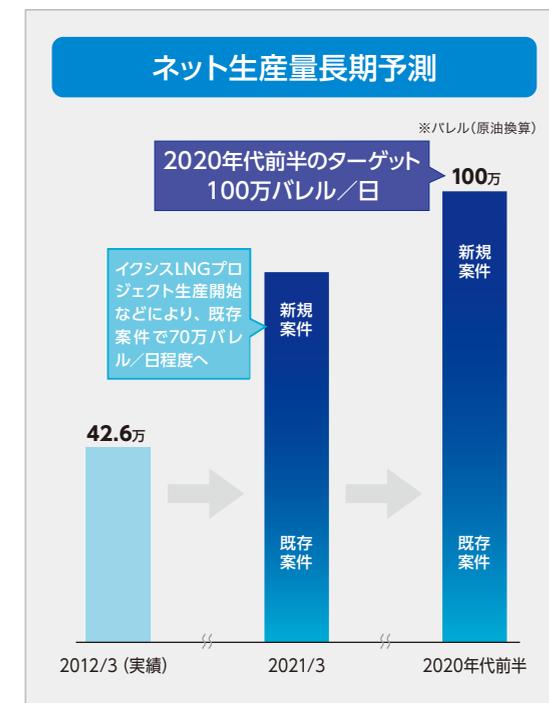


アバディLNGプロジェクト (試掘)

カナダ シェールガスプロジェクト (掘削)



プレリウドFLNGプロジェクト (FLNG船) (イメージ)



探 鉱

Exploration



開 発

Development



その他

Others



2012

4月 April

5月 May

6月 June

7月 July

8月 August

9月 September

2012.5 探 鉱

イラク ブロック10鉱区の落札

ロシアのルクオイル社の子会社とともに、イラクの第4次公開入札に共同で参加し、ブロック10鉱区を落札しました。また、本年11月にはルクオイル社の子会社と共同で本鉱区に係るサービス契約をイラク石油省傘下の南部石油公社と締結しました。

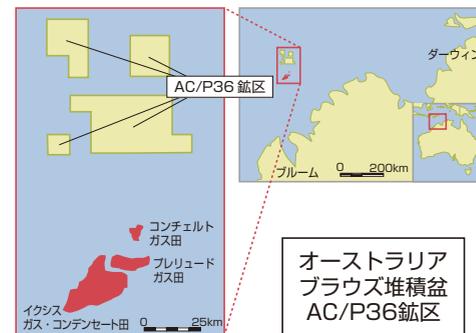
当社は40%の権益を保有し、今後、本契約上の義務作業である二次元地震探鉱収録作業及び試掘井1本の掘削作業を始めとする探鉱作業に順次着手していきます。



2012.6 探 鉱

オーストラリア AC/P36鉱区の取得

子会社 インペックス西豪州ブラウズ石油株を通じて、オーストラリア西豪州沖合AC/P36鉱区の50%の権益を取得しました。今後、オペレーターとして試掘井の掘削を含む探鉱作業を実施していきます。



オーストラリア  
ブラウズ堆積盆  
AC/P36鉱区

2012.5 開 発

オーストラリア イクシスLNGプロジェクト  
ダーウィンにおける陸上ガス液化プラントの  
起工式開催

イクシスLNGプロジェクトでは、ガス液化プラント建設予定地であるオーストラリア北部準州ダーウィン近郊にて、ガス液化プラントの起工式を開催しました。



起工式の様子  
左：当社黒田代表取締役会長  
中央左：ジュリア・ギラード連邦政府首相  
中央右：ポール・ヘンダーソン  
北部準州首相（当時）  
右：マイク・サングスター  
TOTAL E&P Australia 社  
マネージングダイレクター

2012.4 その他

富山ラインの起工式開催



当社北村代表取締役社長による鎌入れの様子

2012.6 その他

天然ガス緊急時  
相互融通契約を締結

当社は、東京ガス(株)及び静岡ガス(株)との間で、3社が保有するLNG基地やパイプライン等のガス供給設備が大規模自然災害等で被災し、天然ガスの供給に支障が出る可能性が生じた場合、既に3社間で接続されているパイプラインを通じて、天然ガスの相互融通を実施することに合意しました。

2012.8 その他

次世代認定マーク  
「くるみん」の取得



2012.8 その他

太陽光発電所「INPEXメガソーラー上越」の  
建設を決定

新潟県上越市にある子会社 帝石トッピング・プラント(株)の敷地内に、当社グループ初の太陽光発電所「INPEXメガソーラー上越」の建設を決定しました。本発電所では、最大出力約2,000キロワット（2メガワット）の太陽光パネルを設置します。本年10月より本格工事に着手し、2013年3月までに完工、同月中の発電開始を目指していきます。



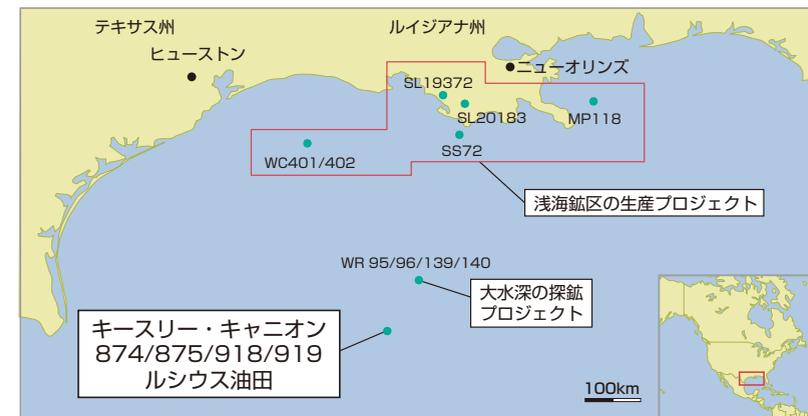
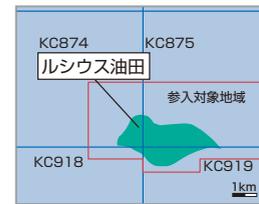
「INPEXメガソーラー上越」完成予想図

2012.8 開 発

アメリカ メキシコ湾ルシウス油田権益を取得

子会社 テイコク・オイル・ノース・アメリカ社を通じて、米アナドルコ社との間で、同社が保有するメキシコ湾キースリー・キャニオン874鉱区、875鉱区、918鉱区、919鉱区内にまたがるルシウス油田の7.2%権益を取得することについて、合意しました。

当社では、メキシコ湾において、浅海域で既に生産中の鉱区を保有するとともに、大水深の探鉱プロジェクトにも参画しています。ルシウス油田は、2011年12月に開発移行が決定されており、2014年後半の原油及び天然ガスの生産開始を目指し、開発作業を進めていきます。



2012.8 開 発

アンゴラ ブロック14鉱区への参加

子会社 インペックスアンゴラブロック14社を通じて、仏トタル社との間で、アンゴラ共和国沖合ブロック14鉱区の9.99%権益を取得することについて、合意しました。本鉱区は、カビンダ州沖合約100kmに位置する既発見未開発構造を含む原油生産鉱区で、3つの開発区域にて洋上石油生産・貯油・出荷施設（FPSO）及び近傍の生産施設へのつなぎ込みにより日量約15万バレルの生産を行っています。アンゴラでは、既に当社が参加する3/05鉱区及び3/91鉱区において原油を生産しており、またカビンダ北陸上鉱区では探鉱作業を実施しています。ブロック14鉱区では、今後、探鉱活動や既発見未開発構造の開発を進めていきます。



下半期の主な予定・動き

- イクシスLNGプロジェクトプロジェクトファイナンス組成  
各施設の詳細設計や調達を主体に作業
- アバディLNGプロジェクト基本設計（FEED）作業開始
- 経営諮問委員会の設置（10月1日）

# 特集 FLNG(フローティングLNG)によるプロジェクト

FLNGは、LNGプラントを搭載した大型の船体で天然ガスを液化し、LNG船に直接出荷する新しい開発方式です。現在、石油メジャーをはじめ、多数の石油会社やエンジニアリング会社などがFLNGの商業化に向けて検討や建設作業を行っています。パイプラインなどの設備が不要で初期投資が少なく済むほか、環境負荷を最小限に抑えられるなどのメリットがあります。



**FLNG**  
海上に浮かぶ船上にLNG貯蔵能力を持ち、海洋ガス田から生産された天然ガスの不純物除去及び液化を行いLNGを生産・貯蔵します。

**輸送用のLNG船**  
FLNGで生産された、LNGを直接積み込み、出荷します。

**海底生産施設**  
ここから天然ガスやコンデンセートなどを採取します。



	アバディ	プレリユード
国名	インドネシア	オーストラリア
生産量(予定)	(第一次開発) LNG 年間250万トン コンデンセート 日量8,400バレル	LNG 年間360万トン LPG 年間約40万トン(ピーク時) コンデンセート 日量約3.6万バレル(ピーク時)
権益比率	当社 60%、シェル社 30%、PT Energi Mega Persada 10%	当社 17.5%、シェル社 72.5%、KOGAS 10%
オペレーター	当社	シェル社
作業状況	開発準備中	開発中

## アバディLNGプロジェクト

アバディガス田は、インドネシア アラフラ海の海上に位置し、ガス層の分布面積が1,000km<sup>2</sup>を超える大型ガス田です。アバディLNGプロジェクトでは、当社がオペレーターとしてこのガス田を探鉱段階から手掛けており、現在は、開発に向けた準備作業を行っています。2010年12月にインドネシア政府から第一次開発計画(POD-1)の承認済で、LNG生産量年間250万トンサイズのFLNG方式による開発を目指しています。大規模洋上開発に実績・経験を持つ石油メジャーのシェル社をプロジェクトの戦略的パートナーとして迎え入れ、2011年12月に参加権益30%を当社より譲渡しており、同社から技術的サポートやFLNG専門家を受け入れています。現在は、開発に向けた準備作業を実施中で、まもなく基本設計(FEED)作業を開始する予定です。

## プレリユードFLNGプロジェクト

当社は、シェル社がオーストラリア北西部沖で開発中のFLNGプロジェクト「プレリユード」に参画し、本年6月に権益17.5%を取得しました。プレリユードFLNGプロジェクトは、LNG年間360万トン、LPG年間約40万トン(ピーク時)、及びコンデンセート日量約3.6万バレル(ピーク時)をFLNG方式により生産・液化・出荷するプロジェクトです。シェル社が2011年5月に最終投資決定を行い、現在開発作業を進めています。当社によるプレリユードFLNGプロジェクトへの参加は、シェル社とのグローバルな関係拡大、当社におけるLNGポートフォリオの強化、FLNGの知見・経験の向上、及びそれらのアバディLNGプロジェクトへの活用といった意義があります。

IR伝言板

## 日本証券アナリスト協会主催「ディスクロージャー優良企業」に選定!



「証券アナリストによるディスクロージャー優良企業選定」で表彰を受ける当社取締役専務執行役員 由井誠二(写真向かって左)

公益社団法人日本証券アナリスト協会による「第18回証券アナリストによるディスクロージャー優良企業選定(平成24年度)」において、石油・鉱業部門で第1位、加えて業種横断の個人投資家向け情報提供でも第1位に選定され、10月15日に表彰を受けました。

「証券アナリストによるディスクロージャー優良企業選定」は、企業情報開示の促進・向上を目的に、日本証券アナリスト協会ディスクロージャー研究会が1995年より開始した制度で、今年度は16業種243社などを対象に証券アナリストが評価を行いました。

当社は、「経営陣のIR姿勢」、「フェア・ディスクロージャー」、「自主的情報開示」が高い評価を受け石油・鉱業部門第1位に選定されるとともに、「個人投資家向け会社説明会」、「ホームページ」が高く評価され個人投資家向け情報提供でも第1位に選定されました。

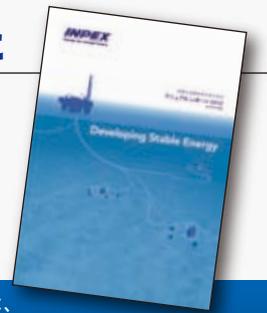
今後とも、適時・適切・公平なディスクロージャー(情報開示)に努めてまいります。

## アニュアルレポート2012を発行しました

アニュアルレポート2012を発行しました。アニュアルレポート2012では、Developing Stable Energy(エネルギーの安定供給に向けたINPEXの取り組み)をテーマとして掲げ、当社の経営理念や、事業環境、注力する大型LNGプロジェクト(イクシス・アバディ)の概要、また、本年5月に策定したINPEX中長期ビジョンの内容を交え、当社の経営内容を総合的にお伝えしています。是非ご覧ください。

書籍の請求も承っております。<http://www.inpex.co.jp/ir/inquiries.html>

アニュアルレポート2012は、当社ウェブサイトでご覧いただくことができます。  
[http://www.inpex.co.jp/ir/library/annual\\_report.html](http://www.inpex.co.jp/ir/library/annual_report.html)



## 株主アンケートにご協力ください!

当社では、株主の皆様からのご意見を経営に活かすとともに、IR活動の充実を図るべく、「株主アンケート」を実施しております。お手数ではございますが、同封の「株主アンケート」にご協力いただきたく、お願い申し上げます(ウェブサイトからもご回答いただけます。方法はアンケートハガキをご覧ください)。

※皆様からの返信数に応じて当社が社会貢献団体(公益信託日本経団連自然保護基金)または「日本赤十字社 東日本大震災義援金」の中から、株主の皆様にお選びいただけます。)への寄付を行います。

※本アンケートは、独立系IRコンサルティング会社(株)アイ・アール・ジャパンに委託して実施しております。

※ご回答いただいた内容は、当社の「個人情報保護に関する基本方針」に基づき、適切に管理いたします。



## 連結財務諸表

詳しくは >>> <http://www.inpex.co.jp/ir/>

### 貸借対照表の概要



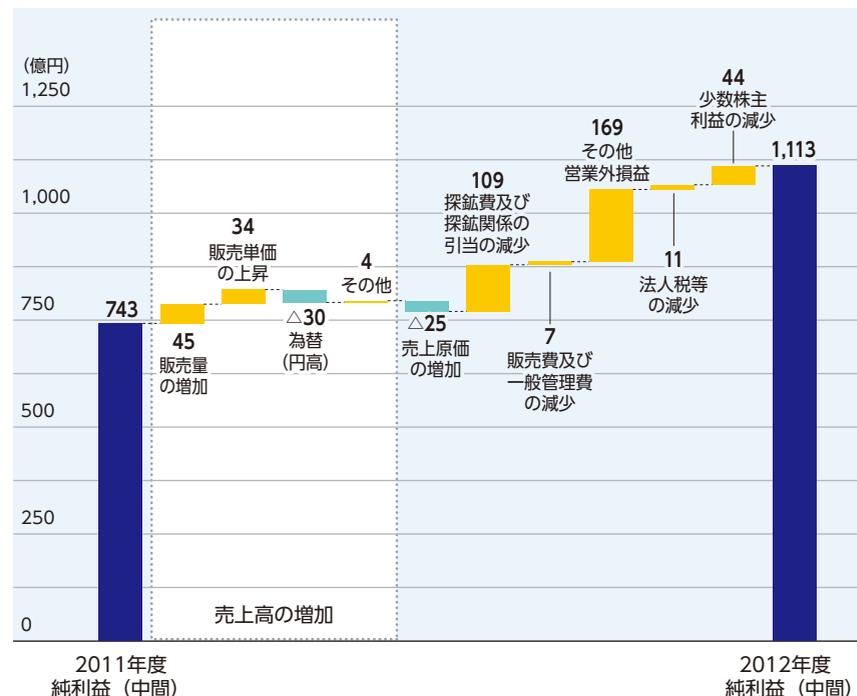
### ポイント

流動資産が減少した一方で、設備投資や権益の取得によって有形固定資産、無形固定資産が増加したことにより、当中間期末の総資産は、前期末に比べ270億円増加し、3兆934億円となりました。

負債は流動負債、固定負債合わせて前期末比458億円減少の7,063億円、純資産は純利益の計上等により前期末比729億円増加し、2兆3,871億円となりました。

この結果、自己資本比率は前期比末1.5%増加し、72.6%、1株当たり純資産は前期末に比べ17,972円増加の614,881円となりました。

### 損益計算書の概要



### ポイント

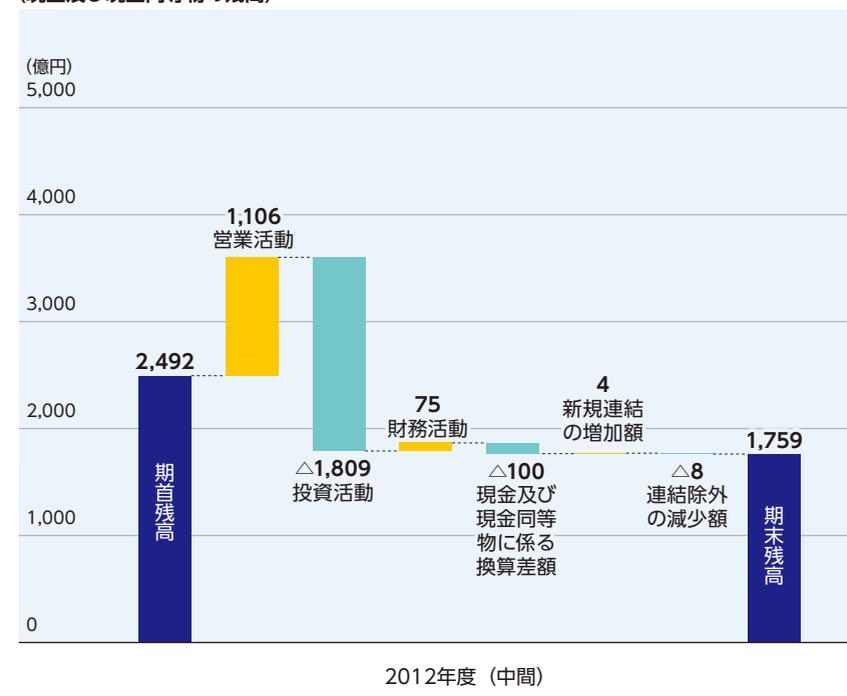
前年同期の純利益743億円に対し、売上高全体で53億円の増益要因となりました。その内訳は、販売量の増加により45億円の増収、単価の上昇により34億円の増収、円高により30億円の減収などとなります。

売上原価の増加は25億円の減収要因となりましたが、イクシス権益譲渡益等の計上という特殊要因により、その他営業外損益で169億円の大幅な増益要因となりました。

法人税等は減少し、少数株主利益等を加味した純利益は、前年同期比49.7%増益の1,113億円となりました。

### キャッシュ・フロー計算書の概要

(現金及び現金同等物の残高)



### ポイント

営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前純利益が増加した一方で、法人税等の支払額が増加したことにより、前年同期と比べ279億円減少の1,106億円となりました。これに投資活動に支出したキャッシュ・フローのマイナス1,809億円及び財務活動により得られたキャッシュ・フローの75億円を加えた結果、現金及び現金同等物の残高は期首に比べ733億円減少し、1,759億円となりました。

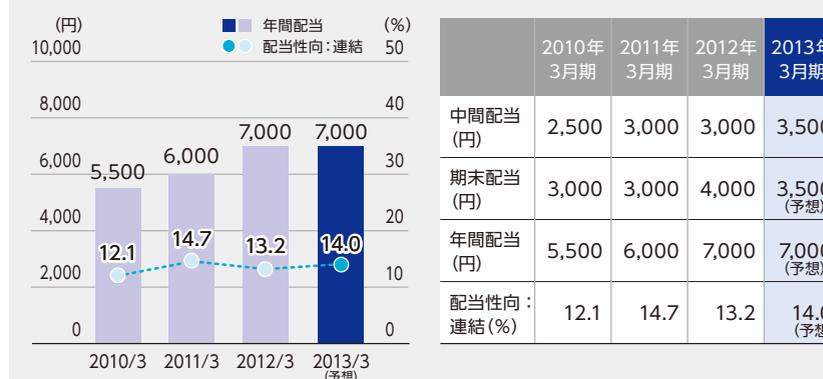
### 当期 (2012年度) の業績見通し (連結)

- 売上高 **1兆990億円** (前期比7.4%減)
- 経常利益 **6,400億円** (前期比16.6%減)
- 当期純利益 **1,820億円** (前期比6.2%減)
- 1株当たり配当金 **7,000円/株** (前期比変わらず)

※業績見通しの前提となる原油価格はプレント104.6ドル/バレル、為替レートは79.7円/米ドルとして試算しております。

前提油価の低下や、探鉱投資の増加を見込んでいることから、減収・減益を予想しています。

### 配当の推移



### 中間配当について

本年11月6日開催の取締役会において本年9月30日を基準日として1株当たり3,500円の中間配当を本年12月3日を効力発生日として行うことを決議いたしました。なお、甲種株式1株についても3,500円の中間配当を行うことを併せて決議しております。

# Corporate Profile

会社概要 (2012年11月30日現在)

**社名** 国際石油開発帝石株式会社  
INPEX CORPORATION

**本社** 東京都港区赤坂5-3-1 赤坂Bizタワー  
(総合受付: 32階)

**設立** 2006(平成18)年4月3日

**資本金** 2,908億983万5,000円

**従業員数** 2,304人(連結) ※2012年9月30日現在

**事業内容** 石油・天然ガス、その他の鉱物資源の調査、探鉱、開発、生産、販売及び同事業に付帯関連する事業、それらを行う企業に対する投融資

**URL** <http://www.inpex.co.jp/>

**主な事業所**

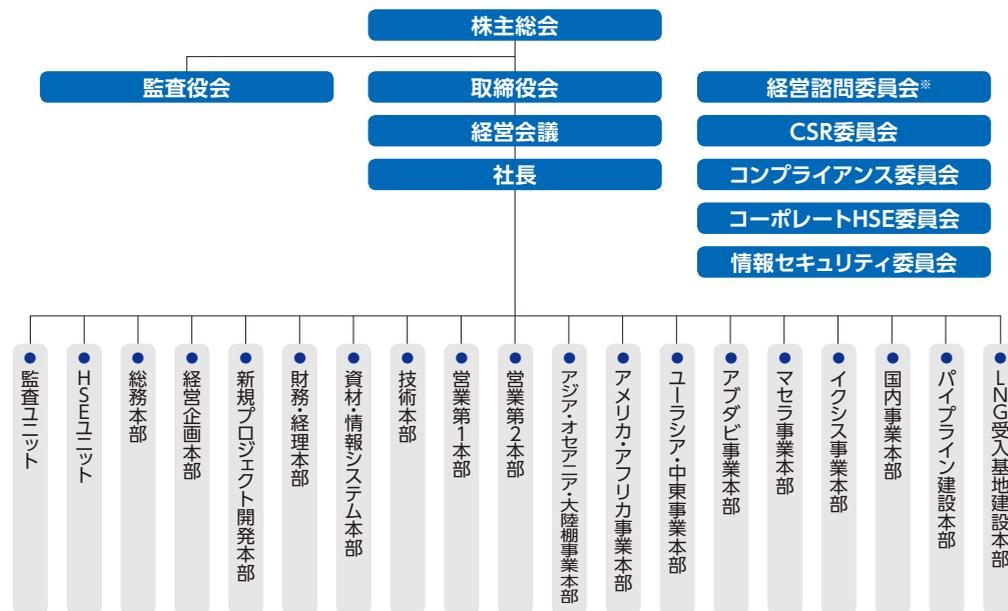
**国内事業所** 東京、秋田、新潟、千葉

**グループ海外オフィス** 米国、カナダ、英国、ブラジル、ベネズエラ、スリナム、マレーシア、オーストラリア、インドネシア、アラブ首長国連邦(UAE)

## 取締役・監査役

代表取締役会長	黒田直樹
代表取締役副会長	技術統括、HSE及びコンプライアンス担当 梶岡雅俊
代表取締役社長	北村俊昭
取締役専務執行役員	経営企画本部長 由井誠二
取締役専務執行役員	技術本部長 佐野正治
取締役常務執行役員	マセラ事業本部長 菅谷俊一郎
取締役常務執行役員	財務・経理本部長 村山昌博
取締役常務執行役員	イクシス事業本部長 伊藤成也
取締役常務執行役員	総務本部長 田中渡
取締役常務執行役員	国内事業本部長 池田隆彦
取締役常務執行役員	新規プロジェクト開発本部長 倉澤由和

## 組織図



※本年10月、コーポレート・ガバナンスの持続的強化に向けた具体策の一環として、経営諮問委員会を設置

# Stock Information

株式の状況 (2012年9月30日現在)

## 株式の状況

**発行可能株式総数**

普通株式 9,000,000株

甲種類株式 1株

**株主数及び発行済株式の総数**

普通株式 39,972名/3,655,809株

甲種類株式\* 1名(経済産業大臣)/1株

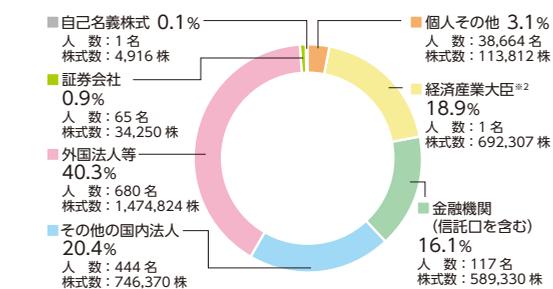
※ 当社定款において、経営上の一定の重要事項の決定について株主総会または取締役会の決議に加え、甲種類株主総会の決議が必要である旨が定められております。

## 大株主(普通株式)の状況

株主名	持株数(株)	持株比率(%)*
経済産業大臣	692,307	18.9
石油資源開発株式会社	267,233	7.3
三井石油開発株式会社	164,760	4.5
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	147,118	4.0
三菱商事株式会社	134,500	3.7
ザ チェース マンハッタン バンク エヌエイ ロンドン エス エル オムニバス アカウト	132,323	3.6
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	124,985	3.4
JXホールディングス株式会社	109,527	3.0
ジェーピー モルガン チェース バンク 380055	105,150	2.9
シービーニューヨークオービスファンズ	58,062	1.6

※ 発行済株式総数(普通株式)に対する割合

## 株式の分布状況※1



※1: 割合は発行済株式総数(普通株式)に対する割合  
 ※2: 経済産業大臣の保有株式数には、甲種類株式は含まれておりません。

## 株価と主要指標との比較 (2011年10月~2012年9月)



## 株主メモ

- 事業年度** 4月1日から翌年3月31日まで
- 定時株主総会** 6月開催
- 基準日** 定時株主総会 3月31日  
その他必要があるときは予め公告して設定します。
- 配当金受領株主確定日** 期末配当 3月31日  
中間配当 9月30日
- 公告方法** 日本経済新聞に掲載する方法を行います。
- 上場金融商品取引所** 東京証券取引所(市場第一部)
- 売買単位** 1株
- 株主名簿管理人・特別口座管理機関** みずほ信託銀行株式会社
- 同事務取扱場所** みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部

### 株式に関するお手続きのご案内

- お取扱窓口** 証券会社等に口座をお持ちの場合、住所変更等の各種お手続きは、口座を開設されている証券会社等にてお願いいたします。証券会社等に口座をお持ちでない場合(特別口座の場合)には、下記のお取扱店にてお取扱いいたします。  
なお、支払明細の発行、未払配当金及び未払交付金等に関するお手続きにつきましては、みずほ信託銀行の下記連絡先にお問い合わせください。
- お問い合わせ先** 〒168-8507 東京都杉並区和泉2-8-4  
みずほ信託銀行 証券代行部  
フリーダイヤル 0120-288-324  
(土・日・祝日を除く9:00~17:00)
- お取扱店** みずほインバスターズ証券\*  
本支店、  
プラネットブース(みずほ銀行内の店舗)
- みずほ信託銀行  
本支店
- 未払配当金のお支払** みずほ信託銀行、みずほ銀行の本支店  
(みずほインバスターズ証券では取次のみとなります)

※ みずほインバスターズ証券は、2013年1月4日以降は、みずほ証券となります。